

保護者の皆様へ

新ホール建設計画について

1、新ホール建築資金について

2年前の平成30年3月の事業計画のお知らせで、現ホールの老朽化の為、新ホールの新築の計画を策定するのご案内をいたしました。その中では、本年度令和2年度着工・竣工を目指す計画を進めることとお伝えしましたが、令和2年3月の事業計画のお知らせでは、オリンピック関連で解体費や工費が高騰している為、やむを得ず計画の見直しをすることとなった事をお知らせいたしました。

令和2年度は、木の実幼稚園創立50周年の節目の年であり、また平成23年から行ってきました園舎・園庭の大規模改修工事の10か年計画の仕上げの年と位置付けて、新ホールの建設計画を学校法人理事会で協議してまいりました。

資金計画については、過去30年以上に渡って少しずつ積み立ててきました基本金の一部使用しますが、残りの資金のほとんどは、学校法人 今川学園の傘下にある豪州 IMAGAWA GAKUEN Pty.,Ltd よりの資金移動で賄う計画です。

豪州法人 IMAGAWA GAKUEN Pty.,Ltd ですが、シドニーにおいて国際幼稚園 Konomi Kindergarten を30年に渡り運営し、木の実幼稚園との教材の交流・教員の相互研修を続けてまいりました。質の高い幼児教育の実現を目指す、日本人教員を主体にした幼稚園として現地で高い評価をいただいておりますが、豪州では、この3年ほど前から外資系資本に対する規制強化が起り、新規事業・投資が出来ない、ビジネスビザも発給がされない等の厳しい状況となりました。シドニーの Konomi においても、長年積み立ててきました園地拡張工事の資金が活用できないという事態となり、現地法人の責任者と協議を重ね、その資金の一部を今回の新ホール建設資金として、工事着工後に資金移動できる事となりました。従って、今年度以降の新たな借入金や保護者負担を求める予定はありません。また、本年度の保育料には一切対象経費は計上しておりません。

2、現在の学校法人 今川学園の経営状況について

現在、日本の今川学園では、10年前からの園舎改修工事の借入金の返済に努力しつつ、教職員の処遇改善・働き方改革実現のため、ベースアップや残業代の完全支給、特別支援教員・預かり保育担当教員・保育支援教員等の専任加配教員の増員によって、何より一人一人を丁寧に見る保育、新しい時代に即したプロジェクト型保育の充実を実現しようと、「子どもたちに最善の教育を」との思いで全てのエネルギーを傾けてまいりましたが、教育の質向上に重点投資した結果、当初予想よりコストがかかり、創立以来初めての平成30年度、令

和元年度共に2期連続経常収支の赤字決算となりました。(ホームページ 情報公開で公開予定) 法人理事長としての責任を痛感し、本書面にてお詫び申し上げる次第です。

3、私たちの理念 「全ての投資を子どもたちの教育に」

私共は、まずは子どもたちに最良の幼児教育を提供する条件を整える、施設を常に最良のものに改善し、経験ある教員を増やし、教員研修に時間と経費をかける事を最優先にするという理念で、経営の収支を脇に置いて取り組んでまいりました。しかしながら、この2年間の経営状況では今後の木の実幼稚園の発展の障害となります。幸いにも昨年秋から始まった国の幼児教育・保育の無償化制度による公費助成の大きな恩恵を活かすことが出来ました。不足分は保護者の皆様のご支援をお願いする他ありません。

保護者の皆様には、「無償化になったのに自己負担分があるのはなぜ?」「無償化と聞いて安心していただけなのに自己負担分があるなんて」という疑問もおありかとは思いますが、木の実の独自の教育と理念を実現するには、以上の様な条件整備として多額の費用がどうしても必要であること、いただいた費用はすべて子どもの教育に還元されることを是非ともご理解賜り、一定額のご協力を今後ともお願いしたいと思います。

豪州を含め、欧米先進国の幼稚園・小学校では「教員1人に対して子どもは10人」と言う事が標準となっています。近い将来、欧米先進国並みのレベルまで、なんとか実現したいと心の底から思います。その為には経済的な裏打ちが必要です。公的補助の一層の増額と同時に、木の実の教育にご理解の深い保護者の皆様のご理解と支援が必要です。「無償化」という公的資金を十分生かし、「他にはない独自の質の高い幼児教育の実現」という理念の実現に向けて、保護者の皆様と共に歩んでいければと思っております。何卒お力添えをお願いいたします。

4、改めて新ホールの建築計画について

さて、現在まで建築計画の策定については鋭意努力してまいりましたが、オリンピックの延期のみならず、今回のコロナ禍という事態に新たに遭遇し、今後の経済全体の縮小、物流の停滞等によって、建築工期、工費にどのような悪影響を及ぼすかまだ不明の状態です。

学園創立50周年の今年、新ホール実現が困難な状況になった事は、本当に返す返す残念でなりません。子どもたちや教職員・保護者の皆様にも残念な思いをさせてしまった事、改めてお詫び申し上げたいと思います。

しかしながら、近々には必ず皆様にご報告が出来るものと確信しておりますので、是非とも、今しばらくのお時間をいただきたく思います。今後とも、皆様の温かいお声、声援を糧として最良の幼児教育の実現に向けて、教職員と手を携えて努力してまいりたいと思いません。よろしく願いいたします。

理事長・園長 今川 公平